

大正15年に開設された小諸市動物園は、県内では最古、全国でも5番目に古い動物園。

施設の老朽化、動物の高齢化、時代のニーズに対応するべく、これまで動物園の在り方について、有識者の見解、市民シンポジウムやパブリックコメントにより意見募集等を行ってきました。

これらの意見を踏まえ、将来の小諸市動物園のめざす姿を決定しました。

将来 構想

みんなに愛され、みんなとつながる動物園

ふれあい、学びから動物と人が楽しくつながる場

園 懐古園事務所 ☎ 22-0296

※将来構想について詳しく知りたい場合は、市ホームページをご覧ください、
懐古園事務所までお問い合わせください。

2026 年

開設 100 周年に向けて 再整備をすすめます。

将来構想を基に全体を見直して再整備をすすめていきます。来園者が動物たちのいきいきとした姿に出会い、ふれあい体験などを通じて、楽しみながら学び、地域の生物多様性などにも関心を持ってもらえるようにします。

「小諸ならではの」「小諸らしい」動物園として存続していくために、市民をはじめ大勢の人に愛され、みんなとつながる場所となることをめざします。

来園者が新たな「発見」「驚き」「感動」に出会い、何度も行きたくなる環境づくりを大切にします。

市民をはじめ来園者が小諸市動物園のファンになって、一緒に動物園を盛り上げてもらえるよう、めざす姿を実現するための3つの基本目標を柱にします。

基本目標

Basic 01



人と動物が快適に過ごせる動物園

動物たちがいきいきと快適に過ごし、来園者も居心地よく安全・快適な環境で動物たちと楽しく出会えることで、動物との絆を深めながら心地よい空間を体感できる施設づくりをすすめます。

基本目標

Basic 02



動物とふれあい、命や自然の大切さを楽しく学べる動物園

さまざまな動物たちとの出会いの場を充実させ、生き物たちが暮らす自然環境への関心を持つ取組みをすすめます。

基本目標

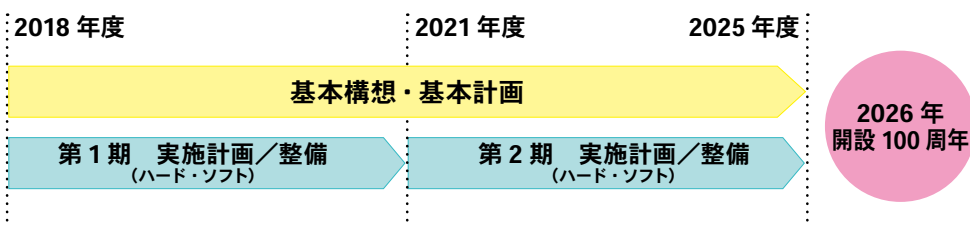
Basic 03



みんなで支え、未来につなぐ動物園

これまでの動物園の歴史を未来につなぐため、運営方法の改善や官民連携、市民協働などの取組みをすすめながら、みんなで支えていく持続可能な動物園をめざします。

【再整備スケジュール】



本来、動物園の再整備は 10 年、20 年の計画で行いますが、本構想期間は、動物園の開設 100 周年となる 2026 年を一つの目安とし、今後の諸情勢の変化や段階的に整備した施設の評価や効果を検証し、随時見直しながら対応していきます。

再整備の具体的内容および整備順序は、基本計画で決めていくものとします。大きな流れとして、内閣府の地域再生計画に認定された『日本版 DMO「こもろ観光局」を核としてオール小諸で取り組む観光地域プロジェクト』の中で、動物園・遊園地を含む懐古園の魅力強化事業を行うことを踏まえ、この地域再生計画事業の実施期間である 2021 年度末までを第 1 期とします。

その後、2025 年度末までを第 2 期とし、2026 年の開設 100 周年に向けて取り組んでいきます。



【これまでの主な経過】

平成 26 年 2 月

「小諸市動物園を考える」をテーマにシンポジウムを開催。成城大学打越教授を招き講演会を行い来場者アンケートも実施。

平成 28 年 11 月

「小諸市動物園のめざすべき姿」について小諸市懐古園運営委員会に諮問。以後、委員会 3 回、視察 1 回を行い、諮問を協議。

平成 30 年 1 月

小諸市懐古園運営委員会より「小諸市動物園のめざすべき姿」について答申。

平成 30 年 9 月

小諸市動物園再整備に向けた市民シンポジウムを開催。現地見学、有識者からの講演・パネルディスカッション、来場者アンケートを実施。

平成 30 年 12 月

有識者と小諸市動物園再整備検討会議を開催。

平成 31 年 2 月

小諸市動物園再整備に向けての市民懇談会を開催。